

議 事 録

会議名称	第1回小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定アドバイザーボード
日 時	令和6年6月27日(木) 16時～17時
場 所	小松市役所7階会議室
出席者	(敬称略・順不同) アドバイザー4名 野末 俊比古氏(青山学院大学教育人間科学部長・教授) 杓谷 茂樹氏(公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科長・教授) 安岡 美佳氏(デンマークロスキレ大学准教授)※オンライン参加 吉田 良晴氏(九九谷代表) 事務局(市長公室未来型図書館づくり推進チーム) 横山、高橋、林、竹内、中山 支援業務受託者(アカデミック・リソース・ガイド株式会社、株式会社日本総合研究所(以下「JV」)) 李、有尾、西谷、江頭、平田 ※李以外オンライン参加
欠席者	なし
次 第	1. 挨拶 2. アドバイザーボードの設置目的及びメンバー紹介 3. ミーティング内容 (1)小松市未来型図書館等複合施設基本計画の策定について (2)令和6年度の「こまつリビングラボ」について (3)その他
配布資料	【資料1】小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定アドバイザーボード等について 【資料2】小松市未来型図書館等複合施設基本計画の策定について 【資料3】令和6年度の「こまつリビングラボ」について 【資料4】人材育成講座(第3期子ども司書養成講座受講生募集開始)について

<会議内容は下記のとおり>

1. 挨拶（事務局：横山）

2. アドバイザリーボードの設置目的及びメンバー紹介

- ・事務局高橋より設置目的について説明。
- ・各委員自己紹介及び事務局・支援業務受託者紹介。

3. 議事

（1）小松市未来型図書館等複合施設基本計画の策定について

資料2に基づき、ＪＶより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

野末氏	基本計画について、最終的な市民向けのアウトプットはどのようなものを想定しているのか。
ＪＶ李	「みんなでつくる」プロセスを大切にしていきたい。子どもからシニアまで、あらゆる人にとってわかりやすい内容とするため、アドバイザーのみなさんと協議しながら進めていきたい。
杓谷氏	内容について理解した。一昨年から未来型図書館づくりに関わっているが、図書館だけではなく、博物館も含む複合施設という枠組みになると認識している。博物館についての議論があまりされてきていないように感じており、その点についての考えを伺いたい。
事務局 高橋	基本計画を策定するにあたり、必要な要素は多くあると認識している。複合施設の具体的な機能を決めていくためには、図書館に加え博物館や駐車場等、市の関係各機関との綿密な打ち合わせも必要であるほか、複合施設として必要な要素についてリビングラボ等も通じてみなさんと一緒に検討を進めていきたい。アドバイザリーボードにおける対話を大切にしながら、様々なご意見をいただきたいと考えている。
ＪＶ李	これまで、ミュージアム相当の施設や図書館、子育て支援施設、市民活動支援等が融合する施設の整備支援を行ってきた。経験的に、図書館は複合・融合施設におけるハブになり得ると考えている。博物館機能等についてはヒアリングをしっかりと行っていくが、図書館があることで複合・融合に関してのアドバンテージがあると考えている。そういった考え方も示しながら進めていきたい。
吉田氏	今年度から未来型図書館づくりに関わることになり、まずは今年度の基本計画づくりについての動きを理解した。専門家のみなさんも参画しており、安心感と期待を抱いている。
安岡氏	詳細まで練られている全体計画だと感じた。このプロジェクトでキーワードとして使われている「リビングラボ」や「市民参加」などの言葉

	については、初めての参加者や離れて参加する人などもあるので、コンセプトやキーワードになっている言葉のすり合わせを行えると良い。
事務局 中山	基本計画についてはこちらの内容で進めていく。

(2) 令和6年度の「こまつリビングラボ」について

資料3に基づき、JVより説明。

【主な質疑応答・意見交換】

野末氏	リアル開催は、オンライン開催同様の内容を実施するという認識で問題ないか。
J V 李	ご認識の通り。
野末氏	今年度のリビングラボの大きな目標は、より多様な人を巻き込むことだと感じている。図書館に関心のない人なども巻き込むためにはオンラインの活用が非常に大切である。昨年は、中高生の参加者が少ないことが課題であったこともあり、是非、多様な人を巻き込める方法（時間帯・曜日・方法等）を一緒に考えていきたい。まちかどの掲示板の設置など、様々な方法を検討したい。
野末氏	リビングラボのスケジュールについて、ワーク内容やテーマは基本計画策定の内容に合わせて組まれていると認識している。年度の後半の開催に向けては、基本計画の骨子もリビングラボにおいて共有できると良いと感じた。また、ショートレクチャーのアバターの活用についても興味深い。
杓谷氏	昨年度は中高生の層が非常に薄かった印象がある。基本計画を作る中でも未来を担う中心的な世代であり、施設が開館した後、社会に出た時に、未来を背負う人たちに興味を持ってもらうことは重要だと感じる。参加者の層を広げ、中高生の意見を取り入れることは基本計画策定においても、非常に大事な視点だと思う。
吉田氏	スケートボードのショップを経営しており、中高生も来店する。これまで参加していなかったティーンズ世代にも参加してもらえるような環境をつくっていききたいと感じた。
安岡氏	多様な人たちが集える形が理想だと感じる。参加してくれる人たちが「自分ごと」として参加してもらえる仕掛けが可能であると思うので、その点についても一緒に検討を重ねていきたい。これまで参加できていないが、興味・関心のある人もいるはずである。そういった人たちをすくい上げられるような取り組みを検討していけると良い。また、初回のショートレクチャーのテーマ選定の経緯についても興味がある。
J V 李	テーマに関する資料については別途用意し、アドバイザーのみなさんに事前に共有するようにしたい。

杓谷氏	小松市文化財保存活用地域計画の協議会メンバーでもあり、文化財に対して市民があまり理解できていない点が課題に挙がっていた。施設で地域の文化財を活用しながら、中高生も含めて小松市民のアイデンティティを醸成していけるような仕組みをつくっていききたい。
事務局 中山	今年度は特に若年層を巻き込みながら、多世代が「わくわく」するリビングラボにみなさんと一緒に取り組んでいきたい。リビングラボの初回は8月4日（日）午後を予定している。

（３）その他

【資料４】に基づき、人材育成講座及びこまつ子ども司書クラブの取り組み内容について、事務局より説明。

事務局 中山	アドバイザーの吉田氏には、子ども司書クラブの活動において、図書館の閉館時に流すBGMづくりの講師を務めていただいた。
吉田氏	子ども司書のメンバーからも良い反応をもらい嬉しく思っている。子どもたちのアイデアをもとに、様々な音と一緒に録音し、１つのBGMを完成させるといったプロセスを踏んだ。子どもたちのワクワクしながら取り組む様子も感じることができ、一緒に新たなことにチャレンジできた良い機会になった。

次回、第２回アドバイザリーボードは８月に開催予定。

以上